

伏見区ボランティアセンターのコーナー！

ボランティア

伏見(Fushimi)の福祉(Fukushi)ボランティア情報を発信！

伏見区ボランティアセンターよりお知らせ

物品貸し出しのお知らせ

ボランティアグループ・団体向けにプロジェクター、スクリーン等の貸し出しを行っています。

短期間の車いすの利用が必要になった方など、区民の皆様は車いすの貸し出しを行っています。費用は無料で期間は2週間、1回に限り延長が可能です。



詳しくは伏見区社協(603-1287)まで

ホームページ更新中！



伏見区社会福祉協議会ではホームページを通して講座のお知らせやボランティア募集情報、事業の実施報告など更新を行っています。リニューアルしてまだ間もないですが、ボランティアについて興味のある方はぜひ「伏見区社協」で検索してみてください♪

「誰かの声に耳を傾ける」

ボランティア入門講座 動画配信レポート

伏見区ボランティアセンター・伏見区地域支え合い活動創出コーディネーター共催でボランティア入門講座を企画し、今回の講師である「特定非営利活動法人チャイルドライン京都」様のご協力のもと、講座の動画配信を行いました。動画は紙面右下のQRコードからご覧いただけますが、今回は講座の概要をレポートしたいと思います♪

チャイルドラインのあゆみ

子どもがかける、子ども専用の電話

□世界では…

- ・欧米、東欧、アジアなど30カ国以上で子どものための電話が開発
- ・チャイルドラインの活動は、1986年、イギリスでスタート。
- ・ボランティアによって支えられ、広報や活動資金など、メディア、多くの個人や企業が応援している。
- ・現在、CHI(チャイルドヘルプラインインターナショナル)に150カ国以上が参加している。

□日本では…

- ・1998年に「せががやチャイルドライン」がスタート。
- ・現在、全国39都道府県68団体で実施。

子どもの声を聴いてチャイルドライン活動へ 特定非営利活動法人チャイルドライン京都

チャイルドラインとは、「子どもがかける、子ども専用の電話」として、イギリスで1986年に始まり、日本でも1998年にスタートしました。子どもの権利条約の理念に基づき、子どもの「声」を受け止めることで子どもがありのまま安心して心の居場所をつくること、また受け止めた「声」を社会に発信し、子どもが生きやすい社会を目指す、というミッションを掲げて活動されています。

動画の途中ではミュージシャン・X+(えくすと)さんが作詞作曲した「願い」を使用したミュージックビデオが公開され、出演する子どもたちがチャイルドラインで自分の話を聞いてもらう様子がイラストで表現され、根本理事長は「子どもたちは想いを吐き出したいけど、家庭や学校にそんな人や場所がない。そんな時にチャイルドラインの存在が必要になる」と活動の必要性を説かれていました。



また別のパートでは人間の特性を解説しながら、傾聴時の注意点や姿勢について、ポイントを絞って解説されていました。特に「話してくれるまで待つ」ことの重要性が繰り返し説かれ、それはチャイルドラインが対象とする子どものみならず、人と深くかかわるうえで心に留めておきたいと思うような姿勢を学びました。

他にもチャイルドライン京都の活動に参加する方法など、動画は全部で5本立てとなっております！お時間あるときにご覧ください♪

ボランティア活動は、

「自発性」「社会性」「無償性」

「気になる」「何かしてみたい」
そんな一人ひとりの「思い」から始まる
お金で買えない貴重な活動

QRコードをスマートフォンで撮影

もしくはyoutube「伏見区社会福祉協議会」
で検索！



動画はコチラ↑